

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

RI第2510地区 留萌ロータリークラブ

会報

2013 ▶ 2014
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ 会長目標 **集中と調和**

会長／中出敏彦 幹事／大嶋孝広

プログラム

- 本日
 - 来賓卓話「留萌地方特別支援学級
南部ブロックの活動報告について」
 - 南部ブロック委員長 北光中学校校長 木下 裕二様
 - 南部ブロック長 北光中学校教諭 工藤 笑様
 - 次週予定
 - 移動例会（12月22日／社会奉仕担当）
- | | |
|--|--|
| 会員誕生日 12月22日 ニノ宮清信 配偶者誕生日 12月21日 串橋 美幸 12月21日 古野志津香 12月22日 森 智子 12月22日 清水 節子 | |
|--|--|

No. 2586

第23回 12月18日

出席報告

前例会

| | |
|--------|------|
| 会員総数 | 39名 |
| 出免会員 | 8名 |
| 出免出席 | 8名 |
| 基準会員出席 | 31名 |
| 出席率 | 100% |

前々々会

第20回 11月27日

| | |
|---------|--------|
| 欠席会員 | 11名 |
| 内メイクアップ | 5名 |
| 修正出席率 | 85.71% |

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F



会長報告

- 先週の土曜日に高田親睦活動委員長さんが、文化センターにおいて開催された小平会にて歌手デビューいたしました。さらにご長女にお子様が生誕し、お孫さんが増えて大喜びとの事で重ねてお祝いをいたします。
- 本日臨時理事会を開催し、12月25日の前期最終例会(バツツ例会)は12月22日(日)の社会奉仕委員会担当事業、留萌ロータリークラブ青少年少女剣道練成会を例会とすることを決定いたしました。25日は例会がございませんのでご注意願います。



委員会報告

社会奉仕委員会 堀委員長
 会長報告でもありましたが、12月22日(日)に平成25年青少年少女剣道練成会を青少年奉仕事業として開催いたします。クラブでも例会扱いとなりましたので、多くの会員さんの出席をお願いいたします。なお、場所は留萌市勤労者体育センターで、時間は午前9時開始となっております。奮ってご参加ください。



ニコニコBOX

- 多くの皆様のご参加をうれしく思います。楽しい一日をお過ごし下さい。 中出会長
- 親睦活動委員会の皆様ご苦労さまです。

大嶋幹事

第22回 12月11日(水) 天候/曇

- 3人目の孫が誕生しました。 高田会員
- 今日は家族でお世話になります。 堀会員
- 景品ありがとうございます。 清水会員
- ビンゴ当たりました。 山本会員

| | |
|-----|----------|
| 前 回 | 453,600円 |
| 今 回 | 15,000円 |
| 累 計 | 468,600円 |



プログラム.....

年忘れ家族会



WEEKLY REPORT



日本の会員数は？

1905年2月23日、アメリカ・シカゴで、ポール・ハリスと3人の仲間が集まったのがロータリーの始まりです。最初アメリカだけにあった、ロータリークラブが、今では世界中に広がりました。日本では、1920年10月20日、東京ロータリークラブの創立に始まります。創立会員は24人でした。

1996年11月末、会員数13万982人。この時が、日本の会員数のピークでした。この翌月から、会員数は減り始め、『ロータリーの友』に掲載している会員数を見て、「間違っている」という電話がかかってきたこともありました。それまで、日本の会員数は増え続け、クラブにすれば常に右肩上がり。日本のロータリアンにとって、会員数やクラブ数が減るなどということは、全く考えられないことだったのです。

誰もが「何かの間違い」と考えていた日本の会員数減少ですが、その後、減少は速度を増し、13万人を超えていた会員数が、13万人を切り、12万人になり、そして遂に10万人を割ったころには、日本のロータリアンの多くが自信を喪失し、元気を失ったように見えました。残念ながら、その後も会員数は減少し続け、2011年6月には、9万人を下回ってしまいました。最新の会員数は、88,256人。しかし、悪いことばかりではありません。1920年に東京ロータリークラブが誕生してから守り続けられてきた、日本のロータリーの伝統を継承しながらも、新しいかたちのロータリークラブが誕生してきたのです。

それまでは昼食を共にしながら例会を開催するクラブがほとんどでしたが、朝例会や夜例会のクラブが少しずつ増えてきました。財団学友やROTEX、ローターアクターなど、ロータリーが育てた若い人たちを中心にしたクラブが創立されました。例会で食事が出ないクラブもあります。インターネットで例会を開くEクラブもできました。女性会員が、少しずつですが増え続け、女性だけのクラブも誕生しました。女性の会員数だけ見ますと、少しずつですが、確実に増え続けています。

会員資格や、例会の条件など、規定審議会のたびに少しずつ変わってきています。その変更をうまく取り入れた新しい発想のクラブが創立したり、新しい会員を受け入れることで、日本の会員数も減少に歯止めが

かかりつつあるようです。一方で、伝統を重んじるクラブへの人気も衰えることはありません。さまざまな雰囲気のあるクラブがあり、会員候補者にとって選択肢が多いことはいいことだと思います。

また、前年度の「SAKUJI大作戦」に続き、今年度は「サクセス・ジャパン大作戦」が展開されています。これは2014-15年度末までに第1、第2、第3ゾーンの会員数を10万人にしようという挑戦です。近くにいる候補者を自分のクラブに推薦するだけでなく、日本中にある信頼できる友人・知人を、その人が住む地域のクラブに紹介するためのシステムができました。

さて、前年度、第1ゾーンの会員数がわずかですが増加に転じました。これは特に第2520地区（岩手県・宮城県）と第2530地区（福島県）の2地区の増加に負うところが多いようです。ご存じのように両地区は、2011年3月の東日本大震災で被災した地区です。復興については、今も途上、厳しい状況にある地域ですが、なぜ、会員が増えたのでしょうか。

両地域の人々は、世界中のロータリアンからのたくさんの方の支援を受けました。日本中のロータリアンが手を差し伸べました。地元のロータリアンは自らが被災しながらも、地域の人たちのために活動を続けています。そういったロータリアンたちの姿を見て、多くの人たちにロータリーを知っていただくことができたこと、そしてロータリアンたちが被災しながらもロータリーの良さを理解し、必死にロータリアンであり続けようとしたこと、それらが大きな要因でしょう。

被災地域に何うと、前向きに活動に取り組んでいるロータリアンにお会いし、元気をもらうことができます。「明るく 前向きに」それこそが会員増強の秘策なのかもしれません。 『友』編集長 二神 典子

